The 15th

ヘップバーンに恋して

僕と彼女とラブストーリー

あの頃の、僕たちは淋しかったのかもしれない、、、デパートのテナント、ティファニーで働く君を見た時の、僕の胸の鼓動が、どんなに早かったか教えてあげたい。

黒い制服はジパンシーのデザインらしく、タイトに決まっていた。長い髪を一つにまとめていたのもすごく素敵だった。まだ20代なのに立派な大人に見えてた。洗った髪を乾かしながら振り向いた時の君は、まるで10代の終わりの幼さとあどけなさが残る可愛い少女のようなのは、僕しか知らない秘密だと思っていた。

ともかく、君を見てからどうして近づこうかと考えた挙句、デパートのスタッフ出入り口の歩道で偶然を装って帰りを待つことにした。定時になっても出てこない、1時間前には売り場で君を見つけているのに、君が周りを気にしながら出てきたのは閉館から2時間を過ぎた時だった。疲れ切った君に声をかけた時の君の横顔は、怯えと困惑が入り混じった表情だったが、なぜか僕を見つめてこう言った。「温かいココアが飲みたい」とても小さい声で。僕は初めての出会いなのに、君の手を取って速足で歩き始めた。考えていたお店で、ホットワインを勧めてみた。一口、口にした時の君の驚きと笑顔が忘れられない。

それから、僕は出来る限り君の帰りを地下鉄の出口で待ってたね。改札を抜ける前に僕を見つけると、まるで天使のような笑顔を見せて恥ずかしそうに小さく手を振ってくれたんだ。一緒にお買い物をした時に果物屋さんで、「若奥さん！」って呼ばれて「はい！」って元気よく答えて笑いこけていたね、嬉しそうに。

いっぱいキスして、いっぱい抱きしめてたくさんの思い出が出来たよね。

誕生日に、プレゼントをあげるよと言ったら、君は自分の勤める店の指輪が欲しいって言ったから、あんなことをしてしまったんだ。

売り場に行って、君を見つけて「指輪が欲しいんです」って言ったら君は「はい、この指輪に私が付いてきますからおススメです」って笑いながら自分の指にはめて見せてくれた。僕は指輪を手に取って周りに聞こえるように言った。「僕と結婚してください！」なのに君は急に後ずさりし走ってどこかに行ってしまった。

あれからどこを探しても君がいない。君の残したものは、そのままさ。一年経って僕は引っ越した。そう自分に降りかかっていた離婚調停が終わったから。目的のない場所へ行こうとしていた時に街で声をかけてくれた人は、君の職場の先輩の方だった。「彼女は、結婚していて、離婚調停中だったらしく、元ご主人のDVから逃れて東京へ来ていたんですよ。あなたがプロポーズしている時に、私どもの店の入り口に表れて、皆ビックリしました。それで彼女は逃げたんですね。どこに行ったかも知りませんが、いつかあなたに伝えてあげたかった。」

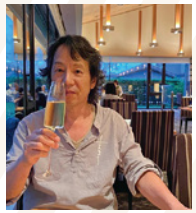
僕は少し嘘をついていた。君も少し嘘をついていた。帰る田舎の無い僕は、誰も知っている人のいない街へ越した。

通勤の朝、新聞を手に駅のホームで僕が、君を見つけた時の、胸の鼓動がどんなに早かったかを君に伝えたい。まさか同じ街にいたなんて。髪を下し赤い口紅を付けた君は、あの時のままだった。僕を見つけた時の君は、驚きと怯えの入り混じった顔で、こう言った。「あの時の温かいワインを、一緒に飲みたい」とても小さな声で、そして泣きながら飛びついてきた。僕は彼女をきつく抱きしめて背中をトントン撫でながらこう言った。「どこにも行かないって、約束して」君が「うん」って頷いた。

＊こんな恋をいっぱいした僕は、いま年齢を重ねてたくさんの人の相談に乗っている。

理容室や美容室の先生に限らず、大人は、いっぱい秘密を持っている。今夜、お父さんとお母さんに聞いてみないか？二人の出会いを。

（文　五番街代表 大倉太喜生）



hair design 五番街
TEL.0287-36-6811
那須塩原市太夫塚
6-232-213

/ In love with Hepburn. /